



発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



昭和大学教育者のためのワークショップ(ビギナーズ)が開催されました

歯学教育推進室長 片岡 竜太

第11回昭和大学教育者のためのワークショップ(WS)が、8月17日(月)～19日(水)に、コロナ感染防止のため、上條記念館で通いの形で開催されました。理事長の指示で「新時代に向けてどのような教員になりたいかを考える」をメインテーマに設定し、内容をアウトカム基盤型教育におけるカリキュラムプランニングに変更しました。参加者にはデジタルコンテンツの Google Classroom を活用して事前学修を行い、当日はディスカッションと発表をする形(反転授業)をとりました。また、電子ポートフォリオシステムを活用し、「どのような医療人を育てたいのか?」「どのような教員を目指すのか?」を事前に考えて提出してもらうことにしました。

歯学部からは、タスクとして片岡教授、丸岡教授、伊佐津准教授、野中准教授、参加者として野末講師(口腔リハ)、斎藤講師(口腔外科)、浅川講師(小児歯科)、笹助教(口腔生化)、行森助教(口腔病理)、立川助教(歯科麻酔)、畔津助教(歯科薬理)、鈴木助教(口腔外科)、山田助教(総合診療)が参加しました。

WSでは4学部と看護専門学校の教員がグループとなり、1. 昭和大学でどのような医療人を育てたいか? 2. 昭和大学でどのような教員を目指すか? 3. 卒業時に身につけている能力(コンピテンシー/卒業時のアウトカム)は? 4. チーム医療教育を例に、課題に関する目標・アウトカム設定 5. 評価について 6. 方略について 7. 新時代に向けてどのような授業を行うか? - 担当科目に落とし込んで考える - の7項目について検討しました。

WS終了後にはポートフォリオを用いて授業実践報告をしていただきます。担当する授業や将来担当する予定の授業について、アウトカム(学修成果)、達成するための知識・技能・態度を含む臨床行為(パフォーマンス)と実践するための方略と評価など、今回のWSで学んだことをどのように授業準備、実践に活かすのかを記載していただきます。

さらに授業を実践した後に、学生のアンケート結果も踏まえて振り返りを行い、次年度からどのように改善するのかを書いてもらうことになっています。

WSでは3つの講演が行われました。小口理事長は、昭和大学の3つの柱である富士吉田教育部の全寮教育、チーム医療教育、昭和大学附属 8 病院を活用した臨床実習教育について話され、新時代に向けてさらなる発展にチャレンジしようという気持ちになる内容でした。

自治医科大学の松山康先生は「新時代の医療系教育～職業アイデンティティを刺激する～」と題し、Zoom ライブ講演として行われました。パンデミック下における世界の試験状況が紹介され、新時代に試験形式の見直しが必要であること、自分の将来像を明確にし、ロールモデルを通じて専門職のアイデンティティを形成し、現在の自分と将来像との差を埋めるための学修課題を解決しながら自己調整学修力を身につけていくことが重要であるというお話でした。

吉岡俊正客員教授(元東京女子医科大学理事長)からは「医学教育この30年」というテーマでアウトカム基盤カリキュラム、東京女子医大で行われた PBL による問題解決能力教育の意義、臨床現場の慣習など学生に影響を与える隠れたカリキュラムなどのお話を伺いました。

学事課、学務課をはじめ事務方の皆さんの協力で、発表者はフェースシールドを使い、その都度マイクの消毒を行うなどの感染対策がなされました。

WSを通して、困難な時期にも足踏みをせずに前に進む昭和大学の底力を体感しました。早速学んだことを後期の授業に活かしていきたいと思えます。



松本歯科大学補綴学講座主任教授 就任

歯科補綴学講座 樋口 大輔

この度、松本歯科大学補綴学講座主任教授として赴任することになりました。これまで指導頂いた馬場一美教授を始め、歯科補綴学講座の皆様、そして歯科病院の事務、職員の方々に感謝し、厚く御礼申し上げます。私は1992年に昭和大学歯学部を10回生として卒業した後、大学院



へと進み、1996年に第一補綴学(冠橋義歯学講座)に入局致しました。当時の医局は現在の歯科技工室、教授室はデジタルラボにありました。その後、医局は現在のインプラント歯科学講座の場所へ、教授室は現在の口腔外科医局の場所に移り、さらにその数年後、歯科病院4号棟KTビルの2階へ移動しました。最初の医局移動では方眼紙に間取図を引き、アナログ的に机を配置しましたが、最後の移動では引っ越し用ソフトで配置を検討しました。スライド作成も紙を撮影するところから始め、次にMacソフトPersuasionで制作したスライド画面を35mmフィルムで取り込み、今はPowerPointやkeynoteなどによって完全にデジタル化されています。歯科治療もデジタル化が急速に進んだ結果、ジルコニアクラウンを始めとするメタルフリーが主流となり、インプラントにおいても手術シミュレーションソフトからガイドセットサージェリーまでの流れが確立されました。このように最近25年はアナログからデジタルへ大きく社会が変わっていった時代でした。また2006-2007年には前補綴学講座教授の川和忠治先生そして前学部長の宮崎隆先生のご紹介によりドイツに留学する機会を与えて頂いたことはその後の歯科医師としてだけでなく人として大きな財産となり、大変良い経験をさせて頂きました。

2008年に竣工した松本歯科大学病院は、特診室やインプラント専用手術室を兼ね備え、地域医療の中隔として大きな役割を担っています。これまでに昭和大学で培った技術や知識を新たな場所で生かして行きたいと考えております。なお、松本歯科大学がある長野県塩尻市はワインや果物が美味しいところです。ぜひコロナ禍が落ち着きましたらぜひ見学を兼ねてお越しください。最後に今回の赴任にあたりご相談申し上げた上條竜太郎教授に御礼申し上げ、私の赴任のご挨拶を閉じさせていただきます。

昭和大学教育者のためのワークショップ (アドバンスト)に参加しました

歯科保存学講座 総合診療歯科学部門
長谷川 篤司

8月22日(土)、23日(日)に旗の台キャンパスの上條記念館において第25回歯学教育者のためのワークショップ・アドバンスコース(以降WS)が開催されました。今回も医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部、富士吉田教育部との合同開催で、医学部は「コロナ時代の基礎医学・臨床医学統合講義」、歯学部は「過去のデータに基づいた進級判定の妥当性の検討」、薬学部は「令和2年度カリキュラムにおける評価・学生ケア」、保健医療学部は「遠隔授業導入に向けた評価の在り方」、富士吉田教養部は「初年次全寮制教育の中での教育改革—新型コロナウイルス感染症に学ぶ意識改革と新たな初年次教育システムの構築—」、これに加えて4学部混成で「学部連携病棟実習・地域医療実習の新カリキュラム検討」について討議しました。

本年は、コロナウイルス感染拡大という未曾有の事態で、各学部とも予定されていた通りに授業ができなかったこともあり、喫緊の教育課題としてコロナ禍に対応できる新しい教育カリキュラム(特に方略)の確立や、評価の妥当性の確保に関する課題が取り上げられていました。

歯学部のワーキンググループでは2年次以降の進級試験などの評価と国家試験時の成績を、具体的な点数データを用いて比較・分析したところ、2年次、3年次の進級試験成績と国家試験結果が関連することが確認されました。そこで、低学年のうちに学修習慣や学修方法を会得・確立させることの重要性を考慮して、学生への修学サポート方法について様々な提案がなされました。例年は、1泊2日で開催され、夕刻以降(時間外)に学部を越えた自由な情報交換ができることが楽しみの1つであった教育者のためのワークショップでしたが、本年はコロナ感染予防対策として2日間の通いで実施されたため、少し残念ではありましたが、各学部とも喫緊に解決すべき課題をかかえて2日間ともに活発なグループディスカッションと、全体会の中での意見交換が繰り広げられました。



昭和大学教育者のためのワークショップ(アドバンス)に参加しました

口腔衛生学部門 弘中 祥司

2020年8月22日(土)と23日(日)に上條記念館で開催されました、昭和大学教育者のためのWS(アドバンス)に参加してきました。COVID-19の影響



で、2日間通いで行われ、検温やマスク装着、ソーシャルディスタンスの確保など、厳戒の中、開催することができました。テーマは6つに分類され、①4学部混成「学部連携病棟実習・地域医療実習のカリキュラム検討」、②医学部「新時代の基礎医学・臨床医学統合講義」、③歯学部「過去のデータに基づいた進級判定の妥当性の検討」、④薬学部「令和2年度カリキュラムにおける評価・学生ケアー教育改革の始動」、⑤保健医療学部「遠隔授業導入に向けた評価のあり方」、⑥富士吉田教育部「初年度全寮制教育の中での教育改革ー新型コロナウイルス感染症に学ぶ意識改革と新たな初年次教育システムの構築」のそれぞれ6グループ(各グループおよそ8名)で行われ、自分は①の4学部混成グループで討議を行いました。

初日には、小口理事長から、本学のアイデンティティに関する講演が行われ、また本学医学部客員教授の吉岡俊正先生から「高等教育の動向と医療教育」という演題で教育の質保証に関わる今後の課題について詳細に報告いただきました。私立の医療系総合大学として、建学の精神に寄り添うこと、そしてその根幹から教育の枝葉が広がる構図をお二方より分かりやすく説明頂いてから、ワークが開始されました。

歯学部グループからは、D2・D3における進級試験の成績分布が歯科医師国家試験に与える影響をこれまでのデータから分析され、それに基づいた進級判定をどう考えるかについて議論がされていました。ただ単純に進級判定を難しくするだけではなく、それまでの教育プロセスを効率化することによって学生本来の勤勉意欲が高まり、それによって成績も向上することが、他のグループからも意見として上がっていました。また、自分の4学部混成グループも、学部連携教育を効率良く行うための方略が示され、次年度以降に重複する医学部の新カリキュラムとどのように整合性を取るかについて意見が交わされました。

最後になりますが、WSは夜中まで議論する事で内容が熟成されるのですが、日帰りのため、少し浅いプ

ロダクトとなってしまった点が残念です。この2日間、感染対策や飲食の管理に献身的に従事いただいたタスクの先生方と学事部の皆様に感謝申し上げます。

昭和大学ファシリテータ養成ワークショップに参加しました

高齢者歯科学講座 古屋 純一

学部連携PBL委員会の主催で開催された今回のワークショップの目的は、昭和大学の特徴の一つであるチーム医療学修のための



ファシリテータの養成です。ご存じのとおり、本学のチーム医療学修は学部連携教育であり、Problem Based Learning (PBL)によって行われます。PBLは文部科学省が進めるアクティブラーニングの手法の一つであり、学生が学びを深めるためにも、ファシリテータの養成は大変重要です。

8月25日(火)、26日(水)に開催された昭和大学ファシリテータ養成ワークショップは、私を含め医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部、富士吉田教育部の16名の先生方が参加されました。今回のワークショップの最大の特徴は、全8つのセッションのすべてにオンラインが全面的に取り入れられていたことです。

事前学修やアンケートにはすべて Google classroom が用いられていました。PBLの醍醐味である小グループでの作業では、プロブレムマップ、KJ法、二次限展開法などの手法を用いることが多いです。しかし、これらの作業も従来のように、ホワイトボードや模造紙にポストイットを張り出したりはしません。Google slide 等のサービスを用いて参加者が自分のPC上でオンライン作業をすることで、従来と同様の作業がリアルタイムで可能となるのです。私も少ないながらPBLを行ってきた経験はありますが、このオンラインで実行可能なPBLのシステムは非常に新鮮かつ有効なものでしたし、今後の可能性を感じるものでありました。そのおかげで、常時マスクをして、非言語コミュニケーションが困難な状況でグループの意見をまとめる作業も楽しめたと思います。

最後になりますが、暑い中、換気やソーシャルディスタンスなどの感染対策に配慮しつつ、ワークショップを運営して頂きました事務担当者の方々、タスクフォースの方々、ファシリテータの方々に深く感謝致します。

昭和大学ファシリテータ養成ワークショップに参加しました

口腔病理学部門 石田 尚子

このたび8月25、26日に旗の台キャンパスで開催されましたファシリテータ養成ワークショップに参加させて頂きました。初めてのワークショップでしたが、普段なかなかお会いするこのできない他分野の医師や歯科医師、薬剤師そして、富士吉田から参加された先生方とディスカッションをすることができ、大変貴重な経験となりました。また、今回はオンラインでのディスカッションが中心となっており、昨今の実情にあった新しい試みがなされていました。

初日は、PBLとは何かというところから始まり、昭和大学の教育課程における学部連携 PBLの役割と意義、そして医療人としての学習目標などを学んでいきました。その後、実際に班へ分かれて、学生の視点に立って模擬 PBLを行いました。1～4のプロセス(問題点の書き出し、問題の整理、学習項目の決定そして問題の対応策の立案)を実施することで、PBLの過程を体験するとともに、学生の立場では何が理解しにくく、PBLを実施する際の問題となりやすいか、またファシリテータにはどのような関わりを期待するのか、などを考える良い機会となりました。2日目は目標書き出しシートとその結果を踏まえた、ふりかえりシートおよび成長報告書に対するフィードバックについて、そしてファシリテータとして教員はどのように関わっていくのかについて勉強させて頂きました。フィードバックではポジティブな面を拾いあげ、PBLおよび提出物の目的や意義を具体的に学生に考えさせながら、グループ内で共有させることを促すことが重要だと学びました。また、班ごとのディスカッションでは様々な職種の方から貴重なご意見を聞けることが出来たのも医療総合大学ならではの経験だと感じました。

最後になりましたが、大変な中、感染対策を徹底していただき、貴重な機会を与えて下さった運営の先生方および2日間のワークショップを共に過ごして頂いた参加者の先生方に心より感謝を申し上げます。



本年度の全日本歯科学生総合体育大会について

学生部長 上條 竜太郎

全日本歯科学生総合体育大会(オールデンタル)は日本の全ての歯学部が参加する歯学生のスポーツの祭典です。夏季は23種目が行われ、ラグビーフットボールやスキー、アメリカンフットボールは冬季開催となり、夏の開催に先駆けて行われます。現在の総開催種目数は26で、規約に従い競技部門ごとに優勝校から順に得点を与え、夏季と冬季の合計点数で総合優勝校を決定します。

今年度のオールデンタルも2019年12月より、ラグビーフットボール部門から開催されておりましたが、2020年1月頃から日本のみならず、世界中で新型コロナウイルスの感染が拡大したことにより、その他の種目は全て中止を余儀なくされました。その結果、ラグビーフットボール部門では順位が決まりましたが、その後の競技の中止により、残念ながら今年度の総合順位は決めることができませんでした。現時点では来年度のオールデンタルも、上記の通り今年の12月よりラグビーフットボール部門から開始される予定ですが、今後の新型コロナウイルス感染の状況により変更されるかもしれません。開催されることになりましたら、感染予防を徹底して行った上で全力でプレーして心身ともに豊かに、また、「新しい生活様式」でのスポーツを通じた交流を楽しんでほしいと願っています。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

| 日時 | 行事 |
|------------|------------------|
| 10月10日～31日 | 父兄会秋季部会 (web 開催) |
| 10月20日 | 解剖慰霊祭 |
| 10月20日 | 歯科医師臨床研修マッチング発表 |

編集後記

歯周病学講座 滝口 尚

吹き抜ける風や虫の声に秋の訪れを感じるようになりました。今年の夏は、コロナ禍に加え、異常な酷暑で体調を崩された方も多かったのではないのでしょうか。例年、9月号は学生の学術研究発表やスポーツで活躍する記事が多く寄せられるのですが、今年の学生行事は中止や延期で、紙幅を割くようなイベントはございませんでした。

本号にご寄稿下さいました皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。